

令和4年度第3回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和4年6月28日（火） 午前10時30分から12時10分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 清水 恒広、岡野 創造、半場 江利子、松本 重雄、位高 光司、
能見 伸八郎、山本 みどり、白須 正
監 事 長谷川 佐喜男 中島 俊則
事務局 折戸経営企画局次長、大島京北病院事務管理者・統括事務長、菱田経営企画課長

1 開会

2 報告事項

(1) 令和3年度 財務諸表等（案）について

資料1に基づき、折戸経営企画局次長から提案
議案のとおり承認された。

- 今年度コロナに係る補助金収入はどのくらい減収するのか。
→ 昨年度の補助金収入20億円のうち、約18億円は病床確保における空床・休床補償にかかる補助金である。平常化すればなくなる見込みだが、病棟の受入れを再開してその分診療報酬を収入するので、18億円がそのまま赤字となるわけではない。
- 今後の患者数はどのように見込んでいるのか。
- 現状では、外来患者数及び紹介患者数は回復傾向にあるが、入院患者数の増加につながっていない。休床している病棟の受入れ再開に当たっては、入院患者の確保が必須であり、今後対策が必要である。

(2) 令和3年度 事業報告書（案）について

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から提案
議案のとおり承認された。

- 「地球環境に配慮した持続可能な発展への貢献」について、評価が継続してBとなっているが、取り組んでいることはあるか。
→ 全館LED化を実施し、消費電力を削減した。
- 食品ロスの削減について、取り組んでいることはあるか。
→ 病院食について、患者の意見を聞いてロスの削減に努めたい。
- 周産期医療において、ハイリスク症例やコロナ陽性症例はどのくらいあったのか。
→ 妊産婦のコロナ陽性症例については、京都市内でも多く受入れ、20例に対応した。
- 新しく導入した患者評価方法について教えてほしい。
→ PX（患者経験価値）を採用することで、これまでのPS（患者満足度調査）とは異なり、より具体的な意見を聞き、改善につなげている。ベンチマークを用いた評価も行っており、年々評価が向上している。
- 救急車の受入件数が増加しているが、増加のために取り組んだことはあるか。
→ コロナ禍にあっても可能な限り対応した結果、これまでで最高の件数を受け入れた。ただし、周辺病院が院内コロナ感染者対応のために受入れを停止していた際に依頼が集中し、断らざるを

得ない事例もあったため、応需率はそれほど高くない時期もあった。

- 「人材育成」に関して、専門資格の取得や維持のための補助は、A評価に値する。
- 「経営改善の実施」について、B評価が続いているが、A評価にならない課題は何か。
- 更なる入院収益の増加と費用の削減が必要であり、補助金に頼ることなく黒字化できるようにしたい。
- 令和3年度に契約した経営支援コンサルタントの効果による効果は出ているのか。
- 様々な取組を支援してもらっているが、まだ経営改善の途上である。

(3) 監査報告書について

資料3に基づき、長谷川監事から報告

(4) 第3期中期目標期間事業報告書（見込評価）（案）について

資料4に基づき、折戸経営企画局次長から提案

議案のとおり承認された。

- 今後の課題はあるか。
- ポストコロナにおいて、良好な経営状態を維持する必要がある。
- 第6－経営改善の実施について、令和3年度の自己評価は「5」ではないのか。
- 令和3年度の黒字は補助金収入の影響が大きい。自己評価は「4」としたい。

(5) 令和4年度京都市立病院機構補正予算の計上に伴う令和4年度年度計画の変更について

資料5に基づき、折戸経営企画局次長から提案

議案のとおり承認された。

3 閉会